

私は、平成4年に大学を卒業後、道内のゼネコンに就職し、その後、区画整理事業に携わる設計会社に勤務、平成12年からは現在の職場でお世話になり16年の月日が経ちました。

技術士試験は、平成16年度に建設部門の「施工計画、施工設備及び積算」で受験し、4回目の受験で何とか合格することができました。面接試験では、試験官が面接中に携帯電話を持って退席するというハプニングに遭い、大変慌てた事が印象深く記憶に残っています。

現在の職場では、河川や道路の構造物設計に携わり、「百聞は一見にしかず」で、現場の経験を土木構造物の設計に生かしていると考えています。土木構造物はすべて一点物であり、基本的な基準や仕様はありますが、如何に現場に合った設計・計画ができるかがとても重要で有り、それが設計業務の醍醐味とも言えると思います。先日、会社訪問に訪れた学生に「この仕事のやりがいは何ですか？」と訪ねられ、「自分が設計した構造物が実際にできあがった時の喜びと充実感は、他では得られない物です。」と答えたのですが、自分は「ものづくり」が好きなのだと、改めて実感させられた瞬間でした。

近年は若手技術者の育成に取り組んでいますが、見た事も触ったことも無い物の設計を教えると言う事は、本当に難しい事だと実感しています。若手技術者には、設計者と言えども、できる限り現場に向き、施工済み物件やこれから設計を行う箇所を、入念に見て歩くように指導しています。また、私自身も現状に満足する事なく、若手技術者に負けなよう技術の研鑽に努め、社会資本整備(土木のものづくり)に微力ながら貢献したいと考えています。

塚本 哲也 (つかもと てつや)

●建設部門

勤務先

株式会社
サッポロ・エンジニアーズ



→次号は、大島 宗さん(建設部門)

土木工学科出身にもかかわらず、製図のセンスがないので設計は無理！ 建設現場のアルバイト経験から施工現場で勤めていく自信もない！という有り様でしたが、縁あって道路の計画系コンサルタントである現職場に勤めることができ、早いもので25年が過ぎました。弊社の仕事は、冬、交通、環境、観光、地域計画、防災など多岐にわたりますが、黎明期は職員の数も少なかったこと

もあり、広く浅くですが、一通り経験してきました。業務の主担当者として年間十数本の多岐にわたる業務をこなすことで四苦八苦している時代に、技術士の存在を知り、既技術士の諸先輩方の仕事に対する取組み姿勢に感化され、「専門的な技術力を身に付け、クライアントからの信頼を高め、既技術士の方々と対等な立場で業務を遂行しなければならない！」という思いが強くなり、2002年(平成14年)に建設部門・建設環境を取得しました。どうせ勉強するのなら好きな環境からということで建設環境を取得しましたが、その後、マネジメント力の向上や主軸業務プロポーザルの管理技術者の資格要件としての必要に迫られ、総合技術監理部門及び道路科目も取得しました。私は考えるより先に行動する性分ですので、失敗も多く、度重なる失敗から学ぶ典型的なOJT型人間です。歳を重ねて要領が良くなったためか、最近は失敗が足りないなあ〜と危機感を感じています(笑)。これからの技術者は、時代のトレンドや社会の課題・ニーズを素早く掴み、知識やノウハウ、技術力を駆使して的確に問題点を把握し、多様な主体と連携・協働して解決していく実行力が求められていると思います。そのためには、技術力に加え、人間力を高めていくことが必要と感じています。今後は、技術研鑽に励むとともに、人間力の向上を目標に精進してまいりたいと思います。

阿部 正明 (あべ まさあき)

●建設/総合技術監理部門

勤務先

一般社団法人
北海道開発技術センター



→次号は、川村文芳さん(建設)